INVESTOR RELATIONS デリカレポート

DELICA REPORT

21 第21期 中間事業報告書

2023年4月1日▶2023年9月30日

デリカフーズホールディングス株式会社
DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.

東証スタンダード　証券コード 3392

2023. November

Top Message

代表取締役社長 大崎善保

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼を申し上げます。

当期も事業報告をすることができましたのは、ひとえに株主の皆様のご理解ご支援の賜物と重ねて御礼を申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、行動制限の緩和による社会・経済活動正常化の動きが進展し、個人消費・インバウンド需要が回復傾向をたどるなど、景気は緩やかに持ち直しの動きが見られました。その一方で、ロシア・ウクライナ情勢の長期化に伴うエネルギーを始めとする諸物価の上昇、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、景気を下押しするリスクもあることから、先行きは依然として不透明な状況にあります。

このような状況の中、当社グループにおきましては、外食産業における売上回復傾向や省力化ニーズの高まりを捉える事で、着実に売上を伸ばしました。また、中期経営計画「Transformation 2024」での基本方針のひとつである「事業ポートフォリオの変革」として取引業種の裾野拡大を推進し、新たなお取引先様ニーズへの積極的な対応を進めた他、BtoC事業の拡充も推し進めました。

損益面では、諸経費が増加傾向にある中、人員配置・物流の最適化などの効率運営、お取引様への丁寧な説明を実施した上での売価改善など、収益体質の強化を継続的に図っております。夏場の記録的な猛暑で、トマトを始めとする各種野菜の生育不良・品質不良が発生し、市場流通量が減少したため仕入価格が急騰したこと等の影響はあったものの、仕入・在庫の厳格管理、廃棄ロスの抑制等に一層注力し、収益力の維持・向上に継続的に努めております。この他、物流拠点新設計画の具体化やフードロスの低減、次世代人材の育成を目的とした人的資本投資の強化など、それぞれの施策を推し進めております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は、第2四半期の売上高としては過去最高の25,344百万円（前年同期比9.1%増）となりました。また、利益につきましても、営業利益は329百万円（前年同期比359.9%増）、経常利益は379百万円（前年同期比231.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は320百万円（前年同期比196.2%増）と前年対比で大きく伸長、営業利益以外はコロナ禍前の2020年3月期第2四半期も上回り、過去最高益を更新しております。

今後もグループ一丸となり、さらなる企業価値の向上に努めてまいりますので、株主の皆様におかれましては、引き続きのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

業績の概況

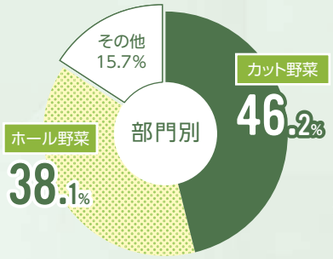
安定的な事業運営で
第２四半期連結累計期間として
過去最高の売上高を計上。

インバウンド需要や外食産業の売上が徐々に回復していく中、食に対するニーズを捉えるだけでなく、売価改善など収益体質の強化にも努めました。また、中期経営計画の最終年度として、引き続き事業ポートフォリオの変革を推し進めた結果、第2四半期として過去最高となる売上高を計上。利益面もすべての項目で大きく伸長し、営業利益以外は過去最高益となりました。

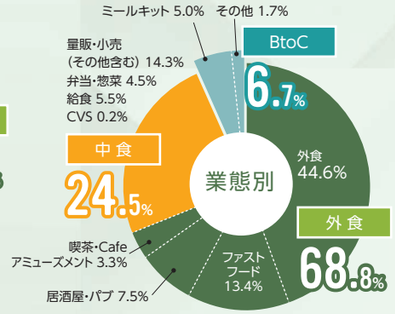
当第2四半期連結累計期間の業績

売上高	25,344百万円（前年同期比9.1%増）
営業利益	329百万円
経常利益	379百万円
親会社株主に帰属する四半期純利益	320百万円
1株当たり四半期純利益	19.68円

販売構成比



加工していない野菜そのものをホール野菜、お客様のご要望に合わせて加工したものをカット野菜といいます。また、真空加熱野菜もカット野菜に分類されます。



外食・中食と大きく分けて2つの業態があり、コロナ禍前は全体の8割以上が外食業界に向けた売上でしたが、ポートフォリオの変革によって現在は7割程となっております。

取締役のご紹介

取締役
こばやし けんじ
小林 憲司

デリカフーズ株式会社
代表取締役社長 兼任

取締役
なかやま こんの
仲山 紺之

取締役
いちの まりこ
市野 真理子

デザイナーフーズ株式会社
代表取締役社長 兼任

社外取締役
おざき ひろゆき
尾崎 弘之

社外取締役
しばた みすず
柴田 美鈴

取締役会長
たちもと いさたけ
舘本 勲武

ANNIVERSARY DISCUSSION

Vol.02
未来 編

持株会社設立から20周年を記念して、前号から2号にわたり座談会を実施。第2回の今号は4名のキーパーソンが集まり、グループ全体の未来を語ります。

デリカフーズホールディングス株式会社
取締役
仲山 紺之

デザイナーフーズ株式会社
代表取締役社長
市野 真理子

デリカフーズホールディングス株式会社
代表取締役社長
大﨑 善保

デリカフーズ株式会社
代表取締役社長
小林 憲司

経営理念刷新の根底にある「徳・体・智」という教え

―今期からの新たな経営理念に対する想いをお聞かせください。

大﨑 これまでの経営理念は「徳・体・智」を掲げ、創業者の「会社は己を磨く道場だ」という教えのもと、我々経営陣は育てられてきました。人として、会社としてのあり方を厳しく叩き込まれています。そのような中、コロナ禍という前例のない苦しい状況を経験し、会社全体を大きく変えていく必要があると強く感じたのです。当社が次のステージに進むには、個を尊重しつつ、さまざまな価値観を融合させて事業を繁栄させるべきだと。そして、「デリカフーズグループは農と健康をつなぐ創造企業である。」という創業からの想いをもとに新経営理念、ミッション・ビジョン・バリューの策定につながりました。

仲山 一般的に、経営理念の刷新はトップダウン方式で役員が考えて社員に浸透させるものだと思います。しかし、今回は社長と若手社員が中心となってキャリア推進プロジェクトを立ち上げ、グループの課題や理念に向き合い、それぞれの考えを議論・集約してつくりました。社員一人ひとりに浸透させる場でも、プロジェクトメンバーや社長が心を込めて説明したことで、受け入れやすいものになったと思います。

市野 特に「和の大切さ」は、新旧の経営理念どちらにも通じています。私はデザイナーフーズの立ち上げから当社の事業に参画していますが、苦しい時期を乗り越えたとき、協調性や助け合いなど、和の心の重要性を実感しました。また、ミッション・ビジョン・バリューとともに新たに信条・行動指針を表した「クレド」も毎日唱和しています。日々の判断基準や持つべき意識がわかりやすく書かれているので、会社全体が同じ方向を向いているという実感が強くなりました。

野菜と人に向き合い続けた第四次中期経営計画

―今期が最終年度となる、第四次中期経営計画の総括をお願いします。

大﨑 コロナ禍の影響を受け、外食産業向け中心の事業ポートフォリオを見直し、量販店やコンビニ、そしてBtoCや通販など、新たな販売チャネルの拡大に取り組みました。我々のもつ経営資源を最大限に活かし、積極的な改革に取り組めたと思います。当社全体の方針や事業を変革しましたが、未来がより強く明るくなるような、非常に手応えを感じる変革となりました。

―事業会社の皆さんはいかがですか？

小林 中期経営計画の基本方針である「サステナビリティ経営の推進」については、20年前の入社時から私自身が野菜残渣の減量に取り組んでいます。その後、飼料化や堆肥化を経て、野菜だし「ベジブロード」の開発へとつながっていきます。これは、野菜の端材や規格不良を理由に捨てられてしまっている野菜を、サステナブルな商品に作り変えたものです。コロナ禍において、多くの人たちが自らの行動・消費を見直し、さらには社会のあるべき姿まで考えるようになりました。これがエシカル消費の浸透につながり、当社の「ベジブロード」も外食産業・食品メーカー、そして一般消費者から注目をされる商品となりつつあります。

市野 人生100年時代と言われる中で、デザイナーフーズでは「野菜を1gでも多く食べてもらう」取り組みを進めてきました。具体的には、野菜の中身に関する研究・分析と、外部向けのコンサルティングです。創業当時から野菜の抗酸化力について研究していますが、どうしても野菜はサイズや傷の有無など、見た目で評価される傾向にあります。それを中身で評価してもらうため、「デリカスコア®」をはじめ、グループ全体で約35,000検体あるデータベースを利用した研究を行いました。コンサルティングについては、メ

経営資源を最大限に活かし、積極的な改革に

— 大﨑 善保

ニューの開発に加え、生活習慣病の予防やダイエットに効果的な野菜の取り方などを、食に関わる業界の方に広くお伝えしてきました。これらの経験やデータは、今後、楽彩事業にも展開していきます。

大﨑 野菜の堆肥化や中身の評価における取り組みは、日本の農業問題にも貢献できると考えています。たとえば、野菜を中身で評価することは、小売店による過度な価格競争を防ぐだけでなく、生産者の収入の底上げにもつながります。また、野菜の消費量が増えて農地が広がれば、同時に環境への効果も期待できます。

—ガバナンスや従業員満足度に対してはいかがでしょう。

仲山 私の前職の銀行での勤務経験からさまざまな企業を見てきましたが、当社はガバナンスにおいて先行している企業だと感じます。それは、役員一同が「議論を尽くす」という思いで、真剣に意見を戦わせているからです。また、社歴や性別に関係なく必要な人材が登用されていて、女性管理職比率は18%を超えています。従業員の待遇改善では、今年の6月に賃金を平均8.7%ベースアップした点が大きなトピックです。あとは、有給休暇の8割消化ですね。従業員のそれぞれが生産性向上について考え実行することにより、このハードルを越えることができました。人材育成や働き方改革に対する社長の意識は高く、若手の育成や働きがいの向上に自ら力を注いでいます。

第五次中期経営計画では野菜にさらなる付加価値を

—来年度からの第五次中期経営計画は、どのような内容になるのでしょうか?

大﨑 特に力を入れていくのは、「メーカーポジションへのシフトチェンジ」です。また、これまでに構築してきた青果物の流通インフラを最大限活用し、「輸入野菜の国産化」、「農業ネットワークの構築」を推し進めたいと考えています。現在は、当社グループの未来にとてもわくわくしながら、役員を中心に計画を策定しているところです。

— 市野 真理子

協調性や助け合いなど、和の心の重要性を実感

安定調達・安定供給はデリカフーズグループの使命

— 小林 憲司

小林 メーカーポジションという点では、当社の商品に、いかに付加価値をつけられるかがポイントとなります。飲食業界全体が人手不足の中、カット野菜・加熱野菜や冷凍野菜に対するニーズが高まっています。デリカフーズでも2022年に冷凍野菜工場を立ち上げ、このニーズに的確に応えていきたいと考えています。また、「輸入野菜の国産化」の背景には、円安や不安定な国際情勢に対するリスクヘッジがあります。安定調達・安定供給はデリカフーズグループの使命です。物流部門とも連携を図りつつ、実現に向けて取り組んでいきます。

市野 デザイナーフーズは、「野菜を1gでも多く消費し価値を高めていく」という根底は変わらずに、分析部門・コンサル部門・研究部門を三本柱として進めていきます。特に研究部門では、社内外双方で活動していく予定です。社内向けは、消費期限の延長や貯蔵性の向上、そして野菜の加工における栄養価の研究に注力します。社外向けは、AIの技術も利用しながら、野菜の食べ方やレシピ開発に注力していきたいですね。

仲山 財務面で言うと、デリカフーズグループは装置型産業であり借入も相応水準ですが、財務バランスを考え運営しています。次の中期経営計画では、よりバランスの取れた財務体質にしていくことが重要です。事業面では、ミールキットなど幅広い商品のラインアップを可能とする開発力が当社の強みの1つです。今後も、野菜を活かした商品・サービスを展開していきたいですね。

—最後に、株主の方に向けてメッセージをお願いします。

大﨑 現在、農業や飲食業界は、非常に多くの課題に直面しています。また、サステナビリティ経営やSDGsへの貢献など、当社の事業が担う役割はますます大きなものになると考えています。私たちデリカフーズグループの成長は、日本の農業・飲食業界を支えるだけでなく、社会貢献や環境保全にもつながると確信しています。株主の皆様におかれましては、引き続きご理解とご支援をいただけますと幸いです。

— 仲山 紺之

役員一同の「議論を尽くす」という思い

NEW

Delica sustainability

おいしさがギュッと詰まった自慢の野菜だし

ベジブロード

今回は、野菜の端材を使用して
開発した野菜だし、
「ベジブロード」をご紹介いたします！

01 | ベジブロードとは?

「食品ロス」とは、本来食べられるにもかかわらず、捨てられてしまう食品のこと。食品関係の事業者から発生する食品ロス量は、年間で279万トン※1にもおよびます。当社として堆肥化など端材の有効活用に取り組む中、今回新たに「ベジブロード」が生まれました。野菜の「ベジタブル」と、イタリア語でだしを指す「ブロード」から名付けられ、原料には、カット野菜の製造時に発生する皮や葉、根などの端材を使用しています。これらをじっくり煮出すことで、おいしく、奥深い味わいの野菜だしへと生まれ変わります。

※1 農林水産省「令和3年度推計値」より

02 | 開発・製品化への経緯

創業者の「捨てられてしまっている野菜をなんとか皆様の胃袋に入れてあげたい」という願いから、当社は15年以上にわたり、野菜を最大限活用する商品の開発に挑戦してきました。今回の取り組みでは、焼津水産化学工業㈱の調味料製造における高い技術力に着目し、共同開発を開始。1年以上試作をかさね、ベジブロードの製品化へと至りました。

03 | 「ベジブロード」を使用した商品展開

2023年9月20日より、㈱物語コーポレーションの飲食店ブランド、「寿司・しゃぶしゃぶ ゆず庵」にて、ベジブロードを使用した茶碗蒸しが発売されました。茶碗蒸しは年間400万食※2注文されており、ベジブロードの使用で1.3トンもの端材の有効活用を実現いたします。当社は今後もさまざまな取り組みを通じて、持続可能な青果物ビジネスを創造してまいります。

※2 2022年8月～2023年7月の期間

「ベジブロード」についてのリリースはホームページ(https://www.delica.co.jp/)をご覧ください。

DELICA NEWS&TOPICS デリカフーズグループの旬な情報をお届けします

NEWS デリカフーズ株式会社

新たに板橋センターを開設

2023年9月22日、東京都板橋区に東京事業所4か所目となる物流センターを開設いたしました。

首都圏マーケットが堅調に拡大する中、当センターの開設により、物流機能の強化や配送サービスの質の向上が見込まれます。当社グループでは、中期経営計画の基本方針に「青果物流通インフラの構築」を掲げています。当センターのほか、2024年4月開設予定の大阪FSセンターを含め、拠点の計画的な増設でグループ全体の成長基盤を構築しております。

デリカフーズ直営19拠点と協力会社から

日本全国3万店舗へ

EVENT デリカフーズ株式会社

約3年ぶりに産地研修を実施

当社では毎年、野菜の生育や管理方法、生産者の野菜に対する想いを学ぶ産地研修を社員向けに実施しています。2020年からはコロナ禍で一時中止していましたが、このたび新入社員や希望者を対象に、約3年ぶりに再開することができました。野菜の収穫や田畑の整備、生産者との座談会のほか、市場見学では所狭しと並ぶ野菜と市場の方の話を興味深く聞かせていただきました。「お客様のための野菜を作るには、人のミスや惰性でのロスは限りなく減らさなければならない」という生産者の言葉にうなずく参加者も多く、当社の一員として働く上で貴重な機会となっております。

決算レポート（第21期 中間事業報告 要旨）

四半期連結財務諸表と当四半期決算のポイントについてご説明します。

四半期連結貸借対照表（要旨）

単位：千円

科　目	第20期 前連結会計年度 (2023年3月31日)	第21期 当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
■資産の部		
流動資産	11,485,365	10,602,543
固定資産 ❶	13,381,590	14,936,795
資産合計	24,866,956	25,539,339
■負債の部		
流動負債	8,919,652	9,090,334
固定負債	8,231,612	8,413,051
負債合計	17,151,264	17,503,386
■純資産の部		
株主資本	7,543,018	7,739,124
その他の包括利益累計額	172,672	296,828
純資産合計 ❷	7,715,691	8,035,953
負債純資産合計	24,866,956	25,539,339

四半期連結損益計算書（要旨）

単位：千円

科　目	第20期 前第2四半期連結累計期間 自 2022年4月 1日 至 2022年9月30日	第21期 当第2四半期連結累計期間 自 2023年4月 1日 至 2023年9月30日
売上高	23,227,182	25,344,129
売上原価	17,754,899	19,180,205
売上総利益	5,472,282	6,163,923
販売費及び一般管理費	5,400,639	5,834,419
営業利益	71,642	329,503
営業外収益	66,538	71,272
営業外費用	23,778	21,087
経常利益	114,402	379,688
特別利益	6,808	5,761
特別損失	30	5,223
税金等調整前四半期純利益	121,180	380,225
法人税等	13,048	59,937
親会社株主に帰属する四半期純利益	108,131	320,288

四半期連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

単位：千円

科　目	第20期 前第2四半期連結累計期間 自 2022年4月 1日 至 2022年9月30日	第21期 当第2四半期連結累計期間 自 2023年4月 1日 至 2023年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	581,578	435,951
投資活動によるキャッシュ・フロー	△495,622	△1,818,474
財務活動によるキャッシュ・フロー	△613,566	△134,473
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△527,610	△1,516,996
現金及び現金同等物の期首残高	4,209,401	5,218,554
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,681,790	3,701,557

	第20期 前第2四半期連結累計期間 自 2022年4月 1日 至 2022年9月30日	第21期 当第2四半期連結累計期間 自 2023年4月 1日 至 2023年9月30日
1株当たり四半期純利益(円)	7.32	19.68
1株当たり純資産(円)	426.64	493.52
自己資本(百万円)	6,302	8,035
自己資本比率(%)	27.7	31.5

決算数値 POINT

❶ 固定資産

固定資産は、前連結会計年度末に比べて11.6%増加し、14,936百万円となりました。これは、主として有形固定資産の「その他」が1,535百万円増加したことなどによります。

❷ 純資産合計

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて4.2%増加し、8,035百万円となりました。これは、主として利益剰余金が190百万円、その他有価証券評価差額金が125百万円増加したことなどによります。

会社概要

2023年9月30日現在

商　号	デリカフーズホールディングス株式会社
英文社名	DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.
設　立	平成 15 年 4 月 1 日
創　業	昭和 54 年 10 月 6 日
所在地	〒121-0073 東京都足立区六町四丁目 12 番 12 号
資本金	1,772,363 千円
従業員数（連結）	726 名（他、平均臨時雇用者数 2,178 名）

役　員

代表取締役社長	大﨑　善保	社外取締役	尾崎　弘之
取締役会長	舘本　勲武	社外取締役	柴田　美鈴
取　締　役	小林　憲司	常勤監査役	田井中　俊行
取　締　役	仲山　紺之	社外監査役	森田　雅也
取　締　役	市野　真理子	社外監査役	三島　宏太

会計監査人　南青山監査法人

株式状況

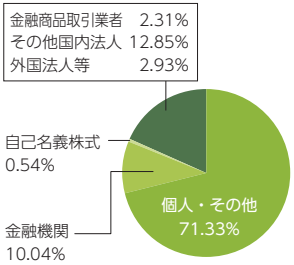
2023年9月30日現在

発行済株式総数	16,372,000 株
株主総数	12,243 名

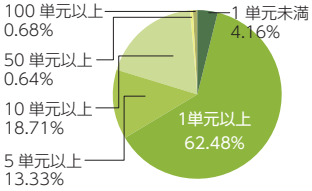
大株主

舘本　篤志	2,038,900 株
エア・ウォーター㈱	1,719,400 株
舘本　勲武	989,700 株
㈱日本カストディ銀行（信託口）	893,800 株
日本マスタートラスト信託銀行㈱（信託口）	461,200 株
大﨑　善保	346,900 株
野村　五郎	189,800 株
丹羽　真清	185,500 株
デリカフーズグループ従業員持株会	178,800 株
JPモルガン証券㈱	164,340 株

［所有者別分布状況］（株式数）



［所有株数別分布状況］（株主数）



株主メモ

事業年度	4 月 1 日～翌年 3 月 31 日
期末配当金受領株主確定日	3 月 31 日
中間配当金受領株主確定日	9 月 30 日
定時株主総会	毎年 6 月
株主名簿管理人	三菱 UFJ 信託銀行株式会社
同連絡先	三菱 UFJ 信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町 1-1 TEL.0120-232-711（通話料無料） 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
上場証券取引所	株式会社東京証券取引所（証券コード 3392）
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載 URL https://www.delica.co.jp/ （ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。）

【ご注意】

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機構（証券会社等）で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

デリカフーズホールディングス株式会社
DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.
〒121-0073 東京都足立区六町四丁目12番12号

IR最新情報はホームページをご覧ください。

デリカフーズ　https://www.delica.co.jp/

【お問い合わせ】TEL 03(3858)1037　FAX 03(5851)1056

本事業報告書は、地球環境への負担を低減させるために、FSC®認証紙と、UVエコインキを使用しています。

見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。